倉吉市民シンポジウム「倉吉市立小・中学校の適正配置等について」の概要

倉吉市教育委員会

「倉吉市１００年の大計」である「倉吉市立小・中学校の適正配置」について、先進町教育委員会の方、ＰＴＡ代表、地域代表等が、それぞれの立場から倉吉市の学校がどうあるべきかを議論し、適正配置等について市民が考えを深めていくために、倉吉市民シンポジウムを開催しました。

先進事例に学びながら、適正規模についての考え方や地域との関係、通学について等、活発な議論が行われました。

１　日　時　平成２５年１１月１０日（日）午前９時３０分～１１時４０分

２　場　所　倉吉交流プラザ　視聴覚ホール

３　参加者　市民５３人

コーディネーター　山田　修平　鳥取短期大学長

シンポジスト　氏橋　俊司　智頭町教育委員会教育課参事

野村栄二朗　智頭小学校前ＰＴＡ会長

笠原　　治　倉吉市小学校ＰＴＡ連合会長

高橋　義博　倉吉市中学校・養護学校ＰＴＡ連合会長

冨田　充信　倉吉幼稚園保護者

徳吉　雅人　明倫地区公民館長

４　概　要

（１）開会あいさつ　福井伸一郎教育長

（２）説明　池原和彦教育委員会事務局次長

（平成２５年度開催の説明会の概要について資料にそって説明）

（３）講演　「智頭町における学校統合について　－　経緯と現在　－」

講師　智頭町教育委員会教育課参事　氏橋　俊司　氏

（パワーポイントによる講演）

① 智頭町・智頭小学校

■智頭町の人口、高齢化率

■統合前の６小学校の位置及び児童数（年次推移含む）

② 学校統合までの経緯

■「１校統合」決定に至るまでの年次経緯

■統合検討委員会の組織及び各部会の検討事項

■児童への対応（統合前の町内児童合同学習会、児童アンケート）

■統合に関わる広報活動（「事務局だより」）

③ 現状と課題

■統合時の児童数及び職員数と年齢構成

■智頭町教育ビジョン及び学校教育目標

■統合後の児童アンケートの結果より（一部抜粋）

■統合後の教育委員会の対応
■課題の考察（児童、教職員、地域）
■保・小・中の連携（一貫した教育）
■統合後１年半経過した現在の児童の反応（６年生）

④ 今、あらためて考えると

■よりよい「統合」について
・「どんな子どもに育てたいか」というめざす姿の十分な共有
・統合推進の組織づくり
・「誰が・何を・いつまでにするか」を明確に
・教育委員会の人的、財政的なゆとり
・協議の進捗状況の情報発信（成果も課題も）
・統合後の学校と地域との関係づくり（学校支援ボランティア　等）

（４）シンポジウム概要

【コーディネーター】自己紹介を兼ねて適正配置についての意見をいただきたい。

【シンポジスト】振り返ってみて、統合について最も大切に考えたいのは、子どもを第一に考えて議論することであると思う。

【シンポジスト】智頭町から来た。智頭小学校前ＰＴＡ会長をしていた。統合時の会長ということになる。その前の２年間は、保護者の意見をまとめる保護者部会の代表をしていた。１００％の合意は難しいと感じながらも受けることとなった。

【シンポジスト】倉吉市小学校ＰＴＡ連合会長をしている。統合の話の中では、単Ｐから出てきた意見をまとめようといった考え方でやっている。平成２４年度山守小学校のＰＴＡ会長をしていた。今年度は、倉吉市小学校ＰＴＡ連合会長をしている。適正配置については、１００％の合意は難しいと感じている。早期の解決は難しいと感じている。慎重に考えて欲しいと感じている。

質問であるが、地域とのつながりを考える上で、この適正配置は重要な問題である。統合前の賛否両論、また、通学等の不安をどのように解消したのか伺いたい。

また、統合にあたって、準備委員会の設置はどのように行われたか、統合してよかったこと、課題を伺いたい。

【シンポジスト】倉吉市中学校・養護学校ＰＴＡ連合会長をしている。

議論はいろいろあるが、ある程度の人数の中で、切磋琢磨していくことが必要であると考えている。また、最も懸念するのは、少子高齢化である。今後予算が削減されることが心配である。財政的なことを考えても、再編は必要ではないかと考える。

中学校においては、部活動が思うように組めないといった問題もある。運動会でも、団体種目に人数的な限界が出始めている。

【シンポジスト】倉吉幼稚園の保護者。幼稚園・保育園の保護者の代表として参加した。以前、幼稚園のＰＴＡ会長をしており、その時に学校教育審議会にも参加していた。

適正配置については、幼稚園・保育園の保護者にとっても関心のあることである。たくさんの人数の中で学ばせたいといった考えが多い。適正配置が行われた場合、長距離通学についての心配をしている。特に下校時についての心配が大きい。

【シンポジスト】明倫地区公民館長。今日は、個人としてではなく、全地区公民館、地域の皆さんの代表として参加したと考えている。基本的に地域には学校は必要であると考えているが、統合後は、その学校が地域の学校である。「未来を考えるか、歴史を考えるか」と最近ある先輩から問われた。この問いが印象に残っている。未来を担う子どもたちといった視点も重要であると思う。

【コーディネーター】１００％の合意が難しい中で、どのようにして、統合に向けて話し合いを進めてきたか。

【シンポジスト】意見を出しやすくするために、テーマを決めて話し合いを進めてきた。「通学に関すること」「統合後の組織について」「持ち物に関すること」「学童保育の運営について」という４つの小部会の中でディスカッションをしてとりまとめるという手法をとった。全体会の下にこうした小部会を位置づけた。自分は、全ての会に出席していたので、週に２・３回は会に出ていた。週末は、議事録をまとめるという作業が１年半続いた。

【シンポジスト】保護者、地域の皆さんとも、小規模校の良さはあるのではないかといった意見はあったが、統合はやむを得ないといった感じはあった。吸収合併ではなく、一から新しい学校を創っていこうといった意識があった。

【コーディネーター】倉吉のシンポジストから質問はあるか。

【シンポジスト】智頭町という広い町で、地域はどのような連携をとっているのか。

【シンポジスト】６小学校のうち、旧智頭小学校以外の５小学校の活用について、企業や地域振興協議会が入ったりしている。統合前は、「地域から小学生がいなくなったらさみしい。」といった意見はあったが、小学生は、土日には地域で遊んでいる。公民館では、さまざまなことを考えて活性化していこうとしている。

【シンポジスト】支部として、旧小学校単位で、小学生が参加する取組を可能とする形を取っている。公民館活動とのタイアップで地域と子どもたちとが交流を図るということで、つながりを重視した。ＰＴＡの本会計から活動資金を出している。支部でスキーに行ったり、旧小学校の校庭でバーベキュー大会をしたりしている。学校がなくなるから、地域がさみしくなるのではなく、どのような地域をつくっていくのかを考えていくことが重要である。結果、７０代、８０代の高齢者が地域の活動に参加し始めた。埋もれていた地域の人材が活躍し始めたと言える。

【コーディネーター】では、会場の皆様から、ご意見を伺います。

【市民】資料の中の５ページ、「住民一括統合」ではなく、「存続」を希望している。

【教育長】承知している。答申そのままということで了解いただきたい。

【市民】智頭町の話を聞いていると、成功事例としてお話しいただいていると感じる。倉吉市は、事情がちがうはずである。小学校だけでなく、幼稚園、保育園、小学校、中学校を一体として考えていくべきであると思う。どの時点で合意形成をいかに実現していくのかが、重要である。住民の意見を十分に吸い上げて欲しい。また、少子化対策を施策として考えていくべきである。

【市民】参加者が少なくて残念。地域の文化祭等と重なっての開催が大きな原因であろう。どうしてこの日に設定してしまったのか。

智頭町の話は参考になったが、もう少し身近な話も聞きたかった。

【市民】智頭町の動き、大変参考になった。倉吉市の場合は、昨年度突然新聞で統合の話が出てきた。上小鴨小学校は、たしかに児童数は少ないが、１００名弱の児童がいる。先進諸国を考えると、「２０名以下の学級を」といった考え方で進めている。倉吉市は考え方が逆である。どうしてなのか。財政的な問題であれば、最初からそのことを言えば良いのではないか。

【市民】氏橋参事の話に、統合後の教室では、いろいろな意見が出るようになったといったことがあったが、それは、教師の授業の在り方の問題であって、少ない人数の教室でも多様な意見は出せるのではないか。問題のすり替えではないかと感じる。

【シンポジスト】たくさんの意見がでる授業は確かに楽しい。旧山郷小学校では、「山郷杉太鼓」が、統合後、地域の中で存続している。統合前は、総合的な学習の時間等の中で、学ぶことすらなかったことだが、統合後は学ぶようになっている。地域の良さに意識が向き始めたと感じる。

【コーディネーター】やはり、ある程度の人数は必要であると思う。その中で力が盛り上がってくるといったこともあると思う。

【市民】上小鴨小学校は、当初、二つに分けて関金小と小鴨小へ統合といった提案であった。その後、すぐに統合問題再編協議会を立ち上げた。こうした会で、さまざまな機会をとおしてこのことについて話し合い、考えてきた。町内学習会でも取り上げたが、まだまだ住民の皆さんには十分伝わっていないと感じる。一般市民は、学校再編により、財政面で浮いたお金で他のことがたくさんできるようになるのではないかという意見があるが、実のところはどうなのか？また、智頭町ではどうか？

【シンポジスト】財政面には直接関わってないので、答えることができない。

【コーディネーター】倉吉市の場合は、まずは、子どもたちにとってどうなのかということを考えていると思う。シンポジストから、これを伝えたいということを述べて欲しい。

【シンポジスト】智頭町の話を聞くことができて、統合までの流れがわかりよかった。教育委員会にも感謝している。適正配置については、まだまだ不安や課題があると感じる。今後も話し合いの機会を持って欲しいと思う。

【シンポジスト】これまでこのように真剣に、倉吉の子どもたちのことについて考えてきたことはないのではないか。「倉吉の子どもをどうしていくのか」についてこれからも考えていきたい。

【シンポジスト】児童数の減少のしかたはすごい。再編については、すぐにというわけにはいかないと思う。今の校区を一度ばらばらにして、もう一度組み直しても良いのではないかという意見も聞く。さまざまな意見を聞きながら、良い結果を出していきたいと思う。

【シンポジスト】子どもの成長ということが第一であると考える。公民館同士の連携もさかんになってきている。今年の例でいくと、成徳、明倫、小鴨、上小鴨の青少協でスキー合宿をやろうという公民館同士の連携を図っている。こうした連携が子どもたちを育てていくのではないかと感じる。総論と各論とをきっちり整理して話し合う事が必要ではないかと感じる。

【シンポジスト】財政の話もあったが、保護者部会を進めるにあたって、一番に考えたの

は、子どもたちにとってどういった教育効果を期待するのかということであった。その目標に向けて、通学、体操服等、具体的なことを話し合ってきた。付随して財政面での話も出てくるが、目標と方策の順番を間違えると話は進まないと考えている。目標設定が最も大切であると思う。

【シンポジスト】通学方法についての話し合いに時間を割いた。子どもたちは路線バスを利用している。保護者からは、バスを学校前に停めてくれといった意見が出て、その通りになったが、体力の低下が心配された。しかし、低下は見られなかった。また、バスの中には、保育園、小学校、中学校、地域の人たち、たくさんの人が乗っている。そうした中で、中学生が小学生を注意する姿も見られる。

【コーディネーター】議論は慎重にすべきである。しかし、この話を１０年、２０年続けていて良いものであろうか。倉吉市の子どもたちのためにどうすることが良いのかを議論し、結論を出していく必要がある。場合に応じて、果敢に時代の変化に対応していくことが重要であると考える。以上でシンポジウムを終わります。

（５）伊藤委員長あいさつ